

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) 平成31 (西暦) 2019	年度	②採択期間 (通常A型は5年以 内、B型は3年以 内)	5	年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A型	型
④日本側拠点機関名 (和文)	東京大学						
⑤研究交流課題名 (和文)	パンパシフィック・セレンディピティラボ						
⑥課題番号	JPJSCCA20190007						
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	大学院理学系研究科・教授・合田 圭介						
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国立研究開発法人理化学研究所							
京都大学							
名古屋大学							
奈良先端科学技術大学院大学							
神戸大学							
筑波大学							
公益財団法人がん研究会							
中央大学							

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カウ ントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2-4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑩に内訳をご記入くださ い。)
拠点機関	6	10	4	27	3	50	
協力機関・協力研究者	9	19	2	8	7	45	
合計	15	29	6	35	10	95	0

⑩手引2-4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
シスメックス株式会社 中央研究所 先端医療 研究グループ 研究員	細胞生物学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加
シスメックス株式会社 中央研究所 先端医療 研究グループ 研究員	血液学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加
株式会社CYBO 社長 <input checked="" type="checkbox"/>	フローサイトメトリ	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加
株式会社CYBO 副社長	フローサイトメトリ	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加

株式会社エクサウィザーズ 会社員	機械学習	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
東京大学大学院理学系研究科化学専攻技術補佐員	細胞生物学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
東京大学大学院理学系研究科化学専攻技術補佐員	電気工学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
株式会社ライブセルダイアグノシス 代表取締役	細胞生物学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
東京大学大学院新領域創成科学研究科技術補佐員	微生物学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
筑波大学技術補佐員	生物化学	インテリジェント画像活性細胞選抜法の応用研究への参加	
⑩「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳	金額 (単位:円)	備考	
研究交流経費	国内旅費※1	1,354,782	外国旅費:新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、支出なし
	外国旅費※1	0	
	謝金	36,700	
	備品・消耗品購入費	5,358,517	
	その他経費	6,156,232	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税※2	53,769	
	計	12,960,000	
業務委託手数料	1,296,000	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。	
合計	14,256,000		

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)
新型コロナウイルス感染症の拡大により計画に沿った海外渡航が困難となったため、令和2年7月6日JSPS通知を受け、外国旅費を他費目に充当することで装置改造および細胞分取実験を行い、令和2年度計画を完了した。

③ 日本側の参加経費による	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)	1,354			
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円)	日本→日本以外の渡航	0		
		日本以外→日本の渡航	0		
日本以外→日本以外の渡航		0			
(単位:千円)(千円未満切捨て)	日本または相手国→日本の渡航	非該当	(左記のうち、 参加研究者の 第三国所属の 相手国側 の総額)	日本または相手国→日本の渡航	非該当
	日本又は相手国→相手国の渡航	非該当		日本又は相手国→相手国の渡航	非該当
	日本または相手国→第三国の渡航	非該当		日本または相手国→第三国の渡航	非該当
	第三国→日本の渡航	非該当		第三国→日本の渡航	非該当
	第三国→相手国の渡航	非該当		第三国→相手国の渡航	非該当
	第三国→第三国の渡航	非該当		第三国→第三国の渡航	非該当

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

經由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤ (B型で平成31年度以前の採択課題のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

総額 (単位:千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明
該当なし	

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)		
全相手国のマッチングファンド総額 (1年間の金額)	マッチングファンドのある相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 (1年間の金額)
52,754	7	7,536

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型								
①共同研究 (適宜、行を加除すること。)		現在の年度に○を付けること→						
共同研究 整理番号	共同研究課題名 (和文)	相手国	1年目	2年目	3年目	A型のみ		
			実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	実施年度に ○を付ける ↓	4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓	
R 1	インテリジェント画像活性細胞選抜法の光学システムの性能向上	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○	○
R 2	インテリジェント画像活性細胞選抜法の画像解析技術向上	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○	○
R 3	インテリジェント画像活性細胞選抜法のマイクロ流体チップの性能向上	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○	○
R 4	インテリジェント画像活性細胞選抜法を用いた蛍光プローブ開発	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○	○
R 5	インテリジェント画像活性細胞選抜法を用いた新規細胞解析法の開拓	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○	○
R 6	インテリジェント画像活性細胞選抜法を用いたナノ材料細胞プローブの開発	米国、オーストラリア、カナダ、メキシコ、韓国、中国、台湾	○	○	○	○	○	○

共同研究の実施状況 (当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。)

R1: 一年目に大幅に改造して実現した高速細胞撮像光学システムを、インテリジェント画像活性細胞選抜法の装置に適用できるように、実験を繰り返しながら調整を行った。本研究の最初の論文として、Lab on a Chip 20, 2263 (2020)に掲載され、かつ表紙に選ばれた。本成果は、日本国内の複数の拠点機関にまたがるだけでなく、中国拠点機関、カナダ拠点機関、米国拠点機関とも共同で研究した成果である。

R2: 画像解析技術向上への取り組みとして、機械学習による画像解像度向上手法のアイデアを新たに創出し、取り組んでいる。その成果の一部は2021年度に予定されている国内学会 (化学とマイクロ・ナノシステム学会) にて発表を予定しており、2021年度には更なる性能向上へ向けて進めていく。また、本研究は米国拠点の技術との親和性も高いことから2021年度はそのシナジー効果も期待して研究を進める。

R3: 細胞検出頻度を20倍以上向上させることに成功した。また、この技術を使ってがん患者サンプルのがん細胞検出実験に取り組み、原理検証に成功した。今後は、米国拠点機関、オーストラリア拠点機関、カナダ拠点機関、中国拠点機関との連携を深めることによりさらなるアプリケーションの拡大や、マイクロ流路の最適化を進める。

R4: 免疫細胞反応抗原や遺伝子欠損箇所を特定する蛍光プローブなどを始めとし、さまざまな蛍光プローブがインテリジェント画像活性細胞選抜法に適用可能かどうかテストし、新たなアプリケーション開拓へ使用可能な蛍光プローブの見つけ出すことに成功した。今後はさらにカナダ拠点機関との連携を深め、プローブ開発を加速させる。

R5: 国内拠点機関において、酵母細胞を用いて老化現象の機序に迫る実験を開始した。また、米国拠点機関において準備したCRISPR技術による遺伝子改変動物細胞を用いて、単一細胞画像解析技術の構築を進めている。今後、これらの実験結果をさらに議論することで、新たな細胞解析法の構築と応用展開を進めていく。

R6: 国内拠点にて、藻類細胞の重金属イオン吸収能力を、藻類細胞内で合成される金属ナノ粒子をナノ材料細胞プローブとして用いることができると仮説を立てて、その実証実験に取り組んだ。まだ仮説が証明されていないが、この検証の過程において、インテリジェント形態プローブという新たなプローブの発見につながるなど、波及的成果が出ている。今後は韓国拠点機関や中国拠点機関と連携して、さらに有用なナノ材料細胞プローブの開発を進めていく。

②セミナー (当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。)					
セミナー	セミナー名 (和文)	セミナー名 (英文)	開催地 (国名・都市名・会場名)	開催期間 (○年○月○日～○年○月○日 (○日間))	
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Symposium 2020 (環太平洋国際化学会議 次世代サイトメトリ: 技術と応用)	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Symposium 2020 (Pacificchem Next-Generation Cytometry: Technologies & Applications)	新型コロナウイルスの影響で2021年へ延期	延期	
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Workshop on Bio-Microfluidics	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Workshop on Bio-Microfluidics	新型コロナウイルスの影響で中止	中止	
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Workshop on Bio-Imaging	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Workshop on Bio-Imaging	新型コロナウイルスの影響で中止	中止	
S 4	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Twitter Workshop	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Twitter Workshop	オンライン	2020年6月17日 (1日間)	
S 5	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Symposium 2020	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Symposium 2020	日本・静岡・清水文化会館	2020年12月15日～2020年12月16日 (2日間)	
S 6	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Seminar	オンライン	2020年4月24日 (1日間)	
S 7	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Seminar	オンライン	2020年5月29日 (1日間)	
S 8	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Seminar	オンライン	2020年6月26日 (1日間)	
S 9	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Seminar	オンライン	2020年7月30日 (1日間)	
S 10	日本学術振興会研究拠点形成事業 Serendipity Seminar	JSPS Core-to-Core Program Serendipity Seminar	オンライン	2020年9月17日 (1日間)	

<p>セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）</p>
<p>【S1】新型コロナウイルスの影響で2021年へ延期された。 【S2】新型コロナウイルスの影響で中止になった。 【S3】新型コロナウイルスの影響で中止になった。 【S4】 新型コロナウイルスの影響でS2およびS3が中止になったことを受け、補間するワークショップを開催した。総数：73人、参加国名ごとの参加人数：日本から36人、米国から6人、オーストラリアから5人、カナダから2人、メキシコから7人、韓国から5人、中国から2人、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況：「6成果」に記載の学術論文誌No.13, 14, 15の成果としてまとめるきっかけとなった、相手国とのネットワーク形成：現在は当たり前になったオンライン学会を多くの学会に先駆けて開催したことにより、若手研究者のモチベーション維持につながった。また、若手研究者が中心となり、Twitterをベースとしたワークショップを開催したことにより、お互いにTwitterをフォローしあうきっかけとなり、その後の情報交換が活発になった。特に、これまで個人のTwitterアカウントでプライベートで使うのみだった研究者が、自身の研究活動アピールや情報交換の場としてのTwitterアカウントを作成して活用するきっかけともなった。</p> <p>【S5】 新型コロナウイルスの影響でS1が延期になったことを受け、補間するシンポジウムを開催した。総数：73人、参加国名ごとの参加人数：日本から65人、米国から5人、オーストラリアから2人、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況：「6成果」に記載の学術論文誌No.13, 14, 15の成果をまとめるのにつながった、相手国とのネットワーク形成：多くの学会が完全なオンライン学会となる中、徹底した感染対策を行うことにより対面（海外拠点からはオンライン参加）のシンポジウム開催を実現し、感染者をだれ一人出すことなく無事に開催した。人と会う機会の少ない中での開催となったことから、新たな人脈を形成するのに非常に良い機会となった。</p> <p>【S6】 飯塚怜先生 (Assistant Professor, Department of Biological Sciences, University of Tokyo, Japan)に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。オンライン開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p> <p>【S7】 Kevin Tsia先生 (Professor, Department of Electrical and Electronic Engineering, University of Hong Kong, China)に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。オンライン開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p> <p>【S8】 Han Wei Hou先生 (Assistant Professor, School of Mechanical and Aerospace Engineering, Nanyang Technological University, Singapore)に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。オンライン開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p> <p>【S9】 Masaki Anraku先生 (Director, Department of Thoracic Surgery, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology, Japan)に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。オンライン開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p> <p>【S10】 Manuel D. Leonetti先生 (Group Leader, Cell Atlas Initiative, Chan Zuckerberg Biohub)に講演いただき、知見を広げる機会とした。また、共同研究を始める機会となるように議論の時間も多とった。オンライン開催で参加者の正確な人数は把握していないが、国内外から少なくとも計30人以上の参加者があり、活発に質疑および議論が行われた。</p>
<p>③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7参照のこと。）</p>
<p>該当なし</p>
<p>④該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3-4（1）①参照のこと。）</p>
<p>S5：参加研究者は常に同じ目標に向かって密にコミュニケーションを持ちつつ研究を推進している。このことにより、より良い研究成果を得ることが可能となるが、同時に、議論の停滞を招くことが多々ある。参加研究者以外の著名な研究者に基調講演を依頼することにより、参加研究者の視点を広げつつ議論を行うことにより、ブレークスルーが引き起こされる確率が上がる。従って、本事業を力強く推進するために、参加研究者以外の基調講演は極めて重要であるといえる。</p>

4. 研究交流状況

事業の型 A 型							
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)							
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
該当なし							

③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (①、②の合計数の半数以下とする。適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)								
国名(派遣元)	国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3)
1 該当なし							0	
計		0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)								
該当なし								

④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣元)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当しない場合は「該当なし」と記入すること。)							
国名(派遣先)	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計	
1 該当なし						0	
計	0	0	0	0	0	0	

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	米国
②拠点機関名(和文および英文)	
和文:カリフォルニア大学ロサンゼルス校 英文: University of California, Los Angeles	
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	Department of Bioengineering, Professor and Graduate Vice Chair, Dino DI CARLO
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文:該当なし 英文:該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	0	1	3	0	5	
協力機関・協力研究者	0	3	0	0	0	3	
合計	1	3	1	3	0	8	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:× 当該年度実施なし:-		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 12,960			
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート(外貨1単位に 相当する円貨額)
	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	-	-	0	2021/2/19	米ドル (USD)	106
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	-	-	0	2021/2/19	米ドル (USD)	106
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	-	-	0	2021/2/19	米ドル (USD)	106
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	-	-	0	2021/2/19	米ドル (USD)	106
(5)相手国側研究者の研究経費	○	National Science Foundation	Engineering Research Center for Precise Advanced	3,484	2021/2/19	米ドル (USD)	106
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	-	-	0	2021/2/19	米ドル (USD)	106
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		3,484			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

6. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	オーストラリア
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: ウーロンゴン大学 英文: University of Wollongong	
③コーディネーター所属部署局名・職名・氏名(英文)	Faculty of Engineering and Information Sciences, Senior Professor & Director, Weihua LI
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 該当なし 英文: 該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	1	1	2	0	5	
協力機関・協力研究者	0	0	1	0	0	1	
合計	1	1	2	2	0	6	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 12,960				
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額(単位: 千円)	換算レート日(例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	-	0	2021/2/19	オーストラリアドル(AUD)	82	
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	-	0	2021/2/19	オーストラリアドル(AUD)	82	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	-	0	2021/2/19	オーストラリアドル(AUD)	82	
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	-	0	2021/2/19	オーストラリアドル(AUD)	82	
(5)相手国側研究者の研究経費	○	Australian Research Council	Discovery Grant	820	2021/2/19	オーストラリアドル(AUD)	82
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	-	0	2021/2/19	オーストラリアドル(AUD)	82	
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		820			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	カナダ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: アルバータ大学 英文: University of Alberta	
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	Department of Chemistry, Professor, Robert Eerl CAMPBELL
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: オタワ大学 英文: University of Ottawa	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	0	1	2	0	4	
協力機関・協力研究者	0	2	0	0	0	2	
合計	1	2	1	2	0	6	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 12,960				
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額(単位:千円)	換算レート日(例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	-	0	2021/2/19	カナダドル(CAD)	83	
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	-	0	2021/2/19	カナダドル(CAD)	83	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	-	0	2021/2/19	カナダドル(CAD)	83	
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	-	0	2021/2/19	カナダドル(CAD)	83	
(5)相手国側研究者の研究経費	○	Canadian Institutes of Health Research	CIHR Foundation Scheme Grant "Optogenetic	24,936	2021/2/19	カナダドル(CAD)	83
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	-	0	2021/2/19	カナダドル(CAD)	83	
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		24,936			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	メキシコ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文:メキシコ国立自治大学 英文:Universidad Nacional Autonoma de Mexico	
③コーディネーター所属部署局名・職名・氏名(英文)	Department of Developmental Genetics, Academic Leader, Takuya NISHIGAKI
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文:該当なし 英文:該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	2	0	0	5	0	7	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	0	0	5	0	7	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし:× 当該年度実施なし:-	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 12,960				
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額(単位:千円)	換算レート日(例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	-	0	2021/2/19	米ドル(USD)	106	
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	-	0	2021/2/19	米ドル(USD)	106	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	-	0	2021/2/19	米ドル(USD)	106	
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	-	0	2021/2/19	米ドル(USD)	106	
(5)相手国側研究者の研究経費	○	DGAPA-UNAM and CONACyT	PAPIIT to Takuya Nishigaki (IN205719), PAPIIT to	6,545	2021/2/19	米ドル(USD)	106
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	-	0	2021/2/19	米ドル(USD)	106	
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		6,545			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。
※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	韓国
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 漢陽大学 英文: Hanyang University	
③コーディネーター所属部署局名・職名・氏名(英文)	Department of Chemistry, Professor, Tae-Hyun YOON
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 該当なし 英文: 該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	2	0	2	1	0	5	
協力機関・協力研究者	2	0	0	0	0	2	
合計	4	0	2	1	0	7	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 12,960				
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額(単位: 千円)	換算レート日(例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)	
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	-	0	2021/2/19	韓国ウォン(KRW)	0.095	
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	-	0	2021/2/19	韓国ウォン(KRW)	0.095	
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	-	0	2021/2/19	韓国ウォン(KRW)	0.095	
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	-	0	2021/2/19	韓国ウォン(KRW)	0.095	
(5)相手国側研究者の研究経費	○	National Research Foundation / Ministry	Bio & Medical Technology Development Program	9,500	2021/2/19	韓国ウォン(KRW)	0.095
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	-	-	0	2021/2/19	韓国ウォン(KRW)	0.095
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	-	合計		9,500			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	中国
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 武漢大学 英文: Wuhan University	
③コーディネーター所属 部署局名・職名・氏名 (英文)	The Institute of Technological Sciences, Professor, Cheng LEI
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 該当なし 英文: 該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	3	0	0	0	0	3	
協力機関・協力研究者	5	3	0	0	0	8	
合計	8	3	0	0	0	11	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 12,960			
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート(外貨1単位に 相当する円貨額)
	1						
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	-	-	0	2021/3/16	人民元 (CNY)	17
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	-	-	0	2021/3/16	人民元 (CNY)	17
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	-	-	0	2021/3/16	人民元 (CNY)	17
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	○	National Natural Science Foundation	Major Instruments Project	1,000	2021/3/16	人民元 (CNY)	17
(5)相手国側研究者の研究経費	○	National Natural Science Foundation	Major Instruments Project	1,000	2021/3/16	人民元 (CNY)	17
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	-	-	0	2021/3/16	人民元 (CNY)	17
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計		2,000			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名(和文)	台湾
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 国立交通大学 英文: National Chiao Tung University	
③コーディネーター所属局名・職名・氏名(英文)	Department of Photonics, Professor, Chia-Wei SUN
④協力機関名(和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 国立台湾大学 英文: National Taiwan University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	3	0	0	3	0	6	
協力機関・協力研究者	0	2	0	1	0	3	
合計	3	2	0	4	0	9	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。)(平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			※参考: 日本側研究交流経費 12,960		
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額(単位:千円)	換算レート日(例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること	1					
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	-	-	0	2021/3/16	台湾ドル(NTD)	4
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	-	-	0	2021/3/16	台湾ドル(NTD)	4
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	-	-	0	2021/3/16	台湾ドル(NTD)	4
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	-	-	0	2021/3/16	台湾ドル(NTD)	4
(5)相手国側研究者の研究経費	○	Government Ministry Ministry of Science and Technology	5,469	2021/3/16	台湾ドル(NTD)	4
(6)相手国開催のセミナー開催経費	-	-	0	2021/3/16	台湾ドル(NTD)	4
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)		合計	5,469			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。